

ということから考えても、やっぱり我々は民間に問うということが、いろんなこういう物事を進めておく人たちの代表選手の姿かなと思っております。だから市長、結論が出ましたので、早期にそういったものを条例制定を強く望んでおきます。どうですか。もう一度、御答弁を。

○議長（初村 久藏君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） このことにつきましては、何度も申し上げますけども、やはりこの十分な議論があって、そして、市民の合意形成の上で、この条例制定を目指すということが理想であろうかと思っておりますので、そのような方向で今後進めてまいりたいと思っております。

○議長（初村 久藏君） 13番、波田政和君。

○議員（13番 波田 政和君） ありがとうございます。市長が話せるのはそのぐらいかたと理解はしております。しかし、一日も早く合意形成が整えるように動くことはできますよね。いろんな形でですね。

そういったことで、いろんな自分なりの知識を見聞録をやりながら、一日も早くそういう方向で、安心ができる、民意に答えが出せる政策を打っていただきたいとこのように思いまして、私の質問とかえさせていただきます。ありがとうございました。

○議長（初村 久藏君） これで、波田政和君の質問は終わりました。

○議長（初村 久藏君） 暫時休憩します。再開は11時からといたします。

午前10時45分休憩

午前11時00分再開

○議長（初村 久藏君） 再開します。

引き続き、市政一般質問を行います。8番、船越洋一君。

○議員（8番 船越 洋一君） 皆さん、おはようございます。今回の定例会の一般質問、私が最終をやりますので、市長、50分間よろしく願います。

それでは、新政会の船越洋一でございます。さきに通告をしておりました3点について、市長の考えを伺いたいと思っておりますので、明快なる答弁をお願いいたします。

まず、1点目に、巖原南部地域アクションプランの進捗状況と今後の計画について伺います。2点目に、巖原東里の温泉の利活用について。3点目は、副市長2人制について。以上、3点を伺います。

まず、1点目の巖原南部地域アクションプランの進捗状況と今後の計画についてです。

行政と地区代表者による策定委員会が設置され、内山・瀬地区、豆殿地区、浅藻・内院地区と3つのエリアで構成され、地域住民が主体性を持ち、行政と団体とで協議・検討がなされている

と思いますが、現状と今後の計画について伺います。

2点目に、巖原東里の温泉の利活用について伺います。

旧巖原町時代に温泉を掘削し、二十数年経過いたしております。現在まで足湯のみにしか利用されておりましたが、行政として何か利活用できる策はないのか伺います。

次に、3点目ですが、副市長2人制について伺います。

前財部市長時代は副市長2人制でありましたが、比田勝市政では2期8年間1人制であります。市長3期目の集大成として新たな事業にも挑戦し、特に基幹産業である漁業、また観光等の多方面について力を入れていかなければならないと思いますが、この際、副市長を2人制にして充実した行政運営を図るべきだと思いますが、市長の考えを伺います。

○議長（初村 久藏君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） 船越議員の質問にお答えいたします。

初めに、巖原南部地域アクションプランの進捗状況と今後の計画についてでございますが、本アクションプランは、巖原南部の内山、瀬、豆敷、浅藻、内院の5つの地区を3つのエリアに分け、地域の持つ優れた自然環境や社会環境を地域独自の貴重な資源として有効活用し、巖原南部地域の活性化を図っていくための行動計画としており、3つのエリアごとに整備テーマを設定しております。この整備計画を具現化していくためには地域住民の果たすべき役割が重要となり、地域住民が主体性を持ち、行動計画に沿った取組を進めていくことが必要となります。

本アクションプランの推進につきましては、地域住民が主体となり、地域と行政が協力して取組を進めていくこととしておりますので、それぞれの果たすべき役割や実施していく事業などについては今後も引き続き、エリアごとに協議・検討を行い、優先度の高いものから取組を進めていくこととしております。

また、行政におきましては、複数の部署に関わることから、関係部署と調整を図りながら横断的に取り組むこととしております。

具体的な取組につきましては、これまでの地区との協議の中で、特に南部地域全体の情報発信拠点となる豆敷住民センターの利活用及び整備に係る御意見が多数あり、また当該施設は年々老朽化が進み、雨漏りも発生している状況でもありますので、まずは施設の建て替えに向けて取組を進めることとしており、今年度におきましては施設の解体に向けた家屋の事前調査と施設解体に向けた実施設計を行っております。

今後の予定としましては、令和6年度に解体工事と新築に向けた地質調査を行い、その後、実施設計、新築工事に着手できるよう、取組を進めていくこととしております。なお、施設の建て替えにつきましては、引き続き地域の意向を聞き取り、施設の仕様や規模等の取りまとめを行っていきたいと考えております。

また、エリアごとの取組につきましては、年度当初に全体会議を開催し、エリアごとの整備テーマに沿った事業を優先度の高いものから順次取り組むこととしており、これまでに地域マネージャー制度を活用して、観光地付近の石橋の架け替えや道路の整備、また地区内トイレの案内板設置や地区内道路の段差解消などを実施しております。

今後につきましても引き続き、地域と行政が一体となって取り組み、地域の好循環を生み出すことで巖原南部地域全体の活性化を図ってまいります。

次に、巖原東里の温泉の利活用についてでございますが、まず、平成16年8月に巖原東里の漁り火公園内にオープンしました対馬海峡漁り火の湯は、既に19年が経過し、また、ボイラー機器の老朽化により足湯に最適な温度が保たれない状況で皆様には御不便をおかけしております。適切な温度を保ち、安定的な利用を維持するためには、まずはボイラー機器の更新が必要となります。しかしながら、利用者が少ない状況、ボイラー機器の更新及びメンテナンスに相当の費用を伴うことから継続が非常に難しい状況であります。

温泉利用につきましては、以前、船越議員の一般質問で漁り火公園付近に温泉施設をとの御提案を頂いているところであります。

市としても、温泉施設の老朽化問題を念頭に、足湯については現状のまま維持するのか、検討をしております。

足湯以外での温泉の活用につきましては、他の温泉施設との絡みもありまして、新たな活用を見いだせないのが現状であります。

最後に、副市長2人制についてでございますが、大変貴重な御提案を頂きましてありがとうございます。

私も議員がおっしゃられるように、漁業、観光業の振興はもちろん、私がこの選挙戦で掲げてまいりました人口減少対策に対応していく上では、副市長を2人体制として組織、市政の運営の充実強化を図っていく必要があると考えております。

その他の分野でも今回の選挙戦で様々な市民の声を頂いており、3期目においては、その実現に向けて最大限の力を注いでいかなければならないと考えておりますので、副市長2人体制で3期目の市政に取り組んでまいりたいと考えております。副市長2人体制による市政運営の充実に向けて、議員皆様の御理解をお願いいたします。

以上でございます。

○議長（初村 久藏君） 8番、船越洋一君。

○議員（8番 船越 洋一君） まず、1点目の巖原南部地域アクションプランについてですが、今、豆殿住民センターの解体をして建て替えるという答弁がございました。確かにそれは皆さんの待望でしたから、やっとなるのかなあと考えております。ありがとうございます。

それと私も、この豆殿方面についてはいろいろな問題提起をしてまいりました。前回でしたか、豆殿崎の展望所、この件についても市長の答弁を伺いました。あそこの先のほうが崩れていますからね、台風で。その手前の砲台跡に展望所を造りたいというふうな答弁を頂きましたが、それがどうなっているのかということ。

それから、市道堂前・志多田線の道路の拡幅工事、これも一般質問で私も提案をしております。

それから、県道から豆殿の地域に入る手前に農道に入ってくる道があります。ここは豆殿の地域内は大型の保冷車が通れないんです、あそこは狭いから。そうすると、対向車があると、どちらか止まってしまわないかんような状況がずうっと続いているんです。ですから、その農道のほうに大型車を迂回させることが必要だろうと私は思うんです。

それにはまず、その県道から農道に入るところ、ここの拡幅をこう広く取らんと入れんわけですよね、今の状況では。それを広くすることによって、今度は観光バスもそちらを走れる可能性も見えます。堂前・志多田線とつながっていきますから、そこら辺も一つ検討の余地があると、私はそういうふうに思います。

それから、この豆殿の住民センターの解体をやって、そこにどういうふうなものができるのかというのはまだ分かりません。恐らく今もう老朽化していますから、あそこは早く解体をして、そしてそこを広場にして新しい住民センター、これはもう平屋でもいいでしょうし、今から人口減少になってきますので大きな建物は要らんとと思いますが、そこら辺は充実した住民センターを造るべきだと、私もそう思います。ですから、そこら辺も詳細な説明を願います。

○議長（初村 久藏君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） まず、この豆殿地区の農道のことにつきましては、今後またこの南部地域のアクションプランの中でもそのような議論はされると思いますし、私自身も豆殿の町中の道路については拡幅がなかなかすることは難しいということで、そのことについては検討をすることが必要であろうというふうに思っております。

そしてまた、豆殿崎の崩れた展望所等については、このことについても担当課のほうで今いろいろと検討はなされているところがございますけれども、このことについてもやはりあそこを一つの観光地として安心、安全な観光地とするためにも、このことについても早く対応をしていかなければならないと思っております。

それから最後に、豆殿の住民センターの関係でございますけれども、ここの住民センターにつきましては、この建設当時はあそこで結婚式とかいろいろなイベント等もなされたということで3階建てのかなり大きな施設となっておりましたけれども、地域の方々の声を聞くところによりますと、今後はもう結婚式とかそういったイベントはまずないということで、もう少しコンパクトな施設でいいんじゃないかというような意見も伺っておりますし、私自身、あそこにはぜひこ

の赤米の展示室的なスペースを設けたいといったことで、昨年の11月にありました総社市、そして南種子町との3市町のこの赤米の会議の中で、そのことも皆さんに申し上げさせていただいたところがございますので、今後計画に向けてそこら辺は取り入れてまいりたいと思っております。

以上でございます。

○議長（初村 久藏君） 8番、船越洋一君。

○議員（8番 船越 洋一君） 赤米の展示をするということも大変いいでしょう。しかしながら、赤米のその田んぼの後継者がいないんですよね。だから、それが先じゃないですかね。展示も結構でしょう。しかし、赤米を継承していく、そういうこともしっかりとやった中で、その展示というのは可能になってくると思います。そこら辺もひとつ、よくよく検討してみてください。

それから、内院地区のトイレの件も前に質問しました。あそこは菜の花が咲いて、五輪塔もありますから観光客も来るんですよ。内院地区のほうのこの3地区に分けてエリアをつくっておるわけですから、内院地区のほうのそういう問題はどのように計画をされているのか、お伺いします。

○議長（初村 久藏君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） 詳細なことにつきましては、担当部長のほうから答えさせますけれども、令和5年度におきまして、地区内のトイレの案内板の設置は、これはもう済んでいるようにございます。

それと浅藻地区の段差の解消等も、ここはもう既に済んでいるということで報告が上がっております。

詳細については、担当部長のほうから答えてもらいます。

○議長（初村 久藏君） しまづくり推進部長、伊賀敏治君。

○しまづくり推進部長（伊賀 敏治君） 内院地区につきましては、先ほど市長が申したとおり、案内板の設置等は進めておりますけれども、以前、例えば消防格納庫のトイレを公共用にとするか、改修できないかというようなお話もあったかと思っておりますけれども、今、ハード整備としましては豆殿の集会所のほうに令和6年度解体、約8,000万円程度予定をしておりますし、その後は新築の実施設計、そして新築となれば数億円という事業も出てくるかと思っておりますので、他の地区のハード整備が多額の事業費になるとその後になるかなとは思いますが、そのトイレの改修についてもまだ地域との話がきちんとできた状況ではございませんので、その話を進めながら小規模なハード整備等であれば、並行して進められるものは進めていきたいというふうには思っております。

○議長（初村 久藏君） 8番、船越洋一君。

○議員（8番 船越 洋一君） やらなきゃならないところはたくさんあるんですよね。要望もたくさん上がってきとるはずなんです。しかしながら、予算がそれに伴っていないんですよね。だから、市長が言われますように、最優先事業、これを検討していきながら一つずつ先に進めていくというのが今の方向性だろうと思うんです。

それと内山・瀬地区はどのような計画になっていますか。

○議長（初村 久藏君） しまづくり推進部長、伊賀敏治君。

○しまづくり推進部長（伊賀 敏治君） 内山・瀬地区につきましては、鮎もどし自然公園っていうメインとなる施設がございますので、その老朽化も著しいということで、その改修または周辺といたしますか、中身の見直しというところも必要だという意見は計画策定の折には頂いておりますけれども、その後どこをどうしていこうかというところまでは申し訳ございませんが、まだ話ができておりませんので、地区との話を今後も進めていきたいと思っております。

○議長（初村 久藏君） 8番、船越洋一君。

○議員（8番 船越 洋一君） 確かに瀬地区はメインになるのは鮎もどし自然公園だろうと思うんですよね。その内山地区にはそれがあると思うのですが、瀬地区のほうは、やはり地域マネージャーを含めた中で、やっぱり地域の人たちとの意見をよくよく調整した中で一つ一つ積み上げていって、それを実行できるものとできんものと区別をしていって、その中で予算配分もしていく必要があろうかと思うんです。だから、そこら辺をしっかりと今後詰めていっていただきたいなど、このように思います。

それから、市長、先ほど言いました県道から農道に入るところのその拡幅です。ぐるっと大型車両が回れる、あそこだけでも先に検討をしてみてください。あそこは大変困っています。というのは、その先にちょっと広場があるんですよ。そこで大型車両はUターンをして方向転換して、そしてそこに入ってくるんです。ところが、その土地の人の擁壁にひびが入ってきよるんです、そこで回るから。縄をしとってでも入ってくると。そういう状況もありますので、そこら辺をよくよく検討してみてください。

それでは、2点目の温泉のことでちょっと伺います。

市長が1期目のときに、あその温泉を旧対馬いづはら病院跡に引いて福祉関係のプールを造って、老人の健康増進を図りたいという提案もございました。しかしながら、それも全く先に進みませんでしたよね。

○議長（初村 久藏君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） 確かに私、1期目のときの公約の中でそのような計画をしたものから、まずは計画して設計まで作り上げまして特別委員会をつくっていただいて、その中でずうっともんでいただいたんですけども、最終的にはやっぱりその特別委員会の委員さんたちが、

これではちょっと運営がうまく成り立っていかないといったようなことで、この事業についてはやめるべきだというような提言がなされました。

そこで私も、いろいろとほかにも考えましたけれど、やむなくここは中止とさせていただいた経緯がございます。

○議長（初村 久藏君） 8番、船越洋一君。

○議員（8番 船越 洋一君） あそこから対馬いづはら病院跡地まで配管をつなぐだけでも何千万円とかかりますよね。温度が下がりますから、どうしてもそこで沸かさないと、そういう経費もかかります。ですから、これは無理なことかなあとは思っていました、やはりこれはやらなくてよかったと私もそう思います。

それともう1点は、今、温泉の横に福祉施設があります。これは旧巖原町のときに、あそこはアパレル関係でしたか、どこかが来てそこを造ったんですけれども、それが今度の市政になって、あそこは老人福祉のほうに今、賃貸で貸していると思うんですが。私が提案したのは、その福祉施設を旧対馬いづはら病院に移転をさせていただいて、そこに温泉施設を造ったらどうかという提案もいたしました。しかしながら、それも先には進みません。

やはり、せっかく旧巖原町時代に7,000万円、8,000万円かけて、あその温泉を掘削したんです。しかしながら、それが20年たってでも有効利用ができていないということについては、不信感があります。それも足湯だけにしか使っていないと、そういう地域はないと私は思います。だから、行政として、そういう策を何か考える必要があると思いますが、そこら辺を今回はお尋ねをするんですけれども、今のボイラーを替えるだけでも金がかかるからということですよ。それではあの温泉施設は使えませんよね。

それと20年もたてば、温泉を掘削した、そのくみ上げる配管も目詰まりしてくると思うんですよ。ここも掃除をせないかんでしょう。普通どんどん出しておけば目詰まりもそうないと思うんですが、腐食してくると思うんですよ、温泉ですから。そういうことも含めますと、これはゆくゆくはもう使えないようになるんじゃないかなあと、そういう懸念も私はしております。そうならないうちに、観光を大事にしていくという理念の下に何か方策を考える必要があると思いますので、そこら辺もしっかりと考えていただきたい。

職員は有能な職員がたくさんおりますから、そこら辺を例えば指定管理じゃなしに企業誘致をできんかということも含めて、そういうことを考えていただきたい。市も金がありませんので、何もかもやれちゅうて言うわけにはいきませんが、しかし、それは遊ばせとるということもまた不都合なことですよ。だから、企業誘致ができれば一番いいことなんです、そういうことも含めた中でしっかりと検討をしていただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

○議長（初村 久藏君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） 議員おっしゃられるように、そういった企業が進出をしてきて、この温泉を使いたいというようなことであれば、私はそれはそれで大変有意義なことだと思っております。ただ、対馬市も合併いたしまして20周年を迎える中で今、美津島の雞知のほうで湯多里ランドも多額の経費を投入して、再度またリニューアルをしながら、この温泉施設を運営しているところでございます。

そういう関係もありまして、ここ漁り火の湯にまた新たな温泉施設を造り上げるのはどうかということをおもは、いつも考えております。それよりも、できるならば対馬市も合併して一つの市になったわけでございます。湯多里ランドまで車で行けば大体10分から15分で行けるものというふうにも思っておりますので、できる限り今ある施設を使っただけのようにお願いをしたいと思っております。

ただ、議員おっしゃられるように、あそこのすぐ下のほうには、結構大きな市の土地があります。そこを以前も東京のゼネコンさんが見えられたときに1回そこを見てもらっております。そういったことで、ゼネコンがあそこの温泉を利用するということになれば、そういった形で利用をしていただければなというようなことを考えているところでございます。

○議長（初村 久藏君） 8番、船越洋一君。

○議員（8番 船越 洋一君） 企業誘致いうても、なかなか大変なんですよ。企業誘致。市長も一生懸命頑張っておると思うんですが、なかなかハンデがありまして、対馬は。だから、企業誘致をやると言うても大変なことだろうと思うんですよ。

だから、今回、私が提案をさせていただいたのは、副市長2人制にしたらどうかという提案をさせていただいたんですが、この有効利用をできる施策を何か職員でアイデアを募って、そこら辺をこういうふうにしたらどうかと。それには国からの予算もこれだけ取るとか、そういうこともやっぱり協議をする必要があるんじゃないかなと思うんですよ。せっかく掘ったものを有効利用しなくて、そのまま寂れていくということも悲しいことです。ですから、その足湯にしてももう少し大きくして、そしてそこに人を呼び込むような施策も考える必要があろうかと、そう思いますけれど。ひとつ、その点についてはしっかりと検討して、今後そこら辺を有効に活用できるようなことをしっかりと行政として考えてください。お願いしておきます。

それから次に、この3点目ですが、副市長を2人制にどうかということで、先ほど市長も2人制に取り組むという発言がございました。確かに私もそれをやらんと、今、市長が3期目の集大成をかけてやるという発言をされていますから、市長が何ぼ1人で頑張っても知れとるんですよ。市長は、市長以外の仕事で地方にも行かないかん、あちこち行って会議にも出ないかん。そういう中で今現在、市長、副市長がおりますけれども、庁舎内をしっかりとまとめていくちゅうのも大変なことですよ。

そういうことを考えますと、この副市長を2人制にせいというのは、やはり先ほど言いましたように、対馬の漁業は基幹産業ですから、これが350億円ぐらい、昭和52年ですか、この水揚げです。350億円ぐらいあったと。ところが、令和4年になってくると140億円ですよ。これだけ衰退してきよるんです。漁業者の皆さん、これではやれませんか。特に近年は気候変動で海水温も変わっています。そして、餌になるイカも捕れません。そういう問題がたくさんこうつながっておるわけですから。そうすると、漁業者の人たちにしてみると死活問題ですよ。

だから、そこら辺を行政としてどういうふうには漁業振興をやっていくのかということは大事なものです。国の予算も取ってこないかんでしょう。そういうことも含めた中で、副市長を漁業関係に強い、その明るい人を引っ張ってくるということも必要でしょう。あるいは観光面についてもそうでしょう。対外的にその企業誘致をする、そういうところも市長が行く前に副市長が行って、そこら辺の話をして、市長が後から出ていって話を決めてくるということも大事でしょう。そういうことをしっかりとやっていく必要があると思うんです。

市長が公約の中で上げているこの5つの未来創造戦略、その中に25項目ぐらいあるんですよ。守る、育てる、働く、整える、攻める。25の項目があるんです。項目を全部が全部できるわけがないんですが、市長の意を酌んでそれをやっていく、その副市長を1人は置くべきだと私は思うから、こんな提案をしたんですが、まずは2番目のこの育てるという項目がございます。

ここで質の高い教育をみんなにということですが、育てるというのはまず、自分のところの職員を育てる。職員を育てると、しっかりした体制はつくれませんよ。確かに子どもたちのことも大切なんです。しかし、基本になるのは行政なんです。行政の中でよい仕事をするには、部下がどれだけの能力を発揮できるか。こういうことをしっかりと指導する必要があると、私はそう思うんです。これが基本なんです。これがあって初めて対馬市が能力を発揮できるわけですから。

とにかく、この対馬は漁業が発展しなくちゃ衰退をたどる一途なんです。だから、市長が言われる漁業と観光、これに力を入れていって、それを盛り返していくような施策を考える必要があると、私はそう思います。ですから、この育てるというところでは、よい仕事をするには部下がどれだけの能力を発揮できるかをしっかりと組み立てる。これは大事なことだと思いますが、いかがですか。

○議長（初村 久藏君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） このことにつきましては、私も全く同感でございます。

確かに、この育てるというのは子どもだけの問題ではない。もちろん、職員のほうも、いかにこのICTを活用していくかということも今後重要な問題にもなってまいりますし、今からのこの複雑化してきた行政の中でやはりもう少し勉強を重ねながら、チャンネルを広くしてから仕事

を進めていくべきだというふうに私も思っておりますので、そのようなことで今後職員の育てるための教育と申しませうか、指導についても一生懸命に努めてまいりたいというふうに思っております。

○議長（初村 久藏君） 8番、船越洋一君。

○議員（8番 船越 洋一君） この職員というのは500人ぐらいおると思うんですが、事業係と事務系とありますが、やっぱり適材適所にその人員配置をやる。そうすると、今の行政の人事異動を見ますと、やはり各部署を1回はぐるっとこう回らして、どういうところにでも行けるようなやり方をやっているんじゃないかなあと、そういう気が私はするんです。

それも大事でしょうが、しかし自分の能力がそういうところにはないのに行って務めないかんといいのもあるでしょう。ですから、その個人個人の能力が発揮できる部署に適材適所に配置をして、そしてその能力を発揮してもらおうということは大事なことだと、私はそう思いますので。今年ももう人員配置があると思いますが、やはりそういうことを基本において人員配置も考えていただきたいと思います。

それから、もう1点、これは佐賀新聞に出とったことをちょっと披露してみたいと思います。

市長が一番懸念することなんですけれど、この佐賀県には玄海原発がありますが、この唐津市鎮西町の波戸岬の周辺に今、国が廃プラスチックごみの処理場を造るということでもう動き出しましたよね。今年度で3,100万円ぐらい予算をつけて今後8年ぐらい、来年ぐらいから本格的に入っていくということなんです。対馬よりも先にそこがやっていると思いますが、しかし、この財源は国の原子力発電施設立地地域共生交付金というのが25億円出る。その内容を見てもみたら、県は最長で2028年度までに行う6事業に交付金25億円を充てると、こうあるんです。

中身を見てみますと、名護屋城跡の前田利家陣跡整備、これに4億2,000万円、ヨットハーバー施設整備3億4,000万円、唐津湾周辺地域の環境整備6億6,000万円、唐津青翔高校というんですかね、Tsunagaruプロジェクト、これに3億6,000万円、高度情報化地域振興支援事業に3億5,000万円、こういう事業をやられるんですよ。ですから、今、対馬市の場合は市長がやらないということで決断を下しましたから、こういうのは取れんと思いますが、しかし、多方面では、こういう事業をやられるということも大事なことなんですよ。だから、そこら辺もこれは一例として挙げました。

しかしながら、この対馬市の今の人口から見ますと、昨日も市長答弁をしていましたけれども、対馬市の生産年齢人口というのは15歳から64歳まで、これがどんどん減っていくんですよ。2050年には5,371人、働ける人は。これだけ衰退していく予想なんです。そうすると、生産年齢人口の働く人がいなくなっていくんですよ。今でも建設業、漁業、いろんなところで働

く人が少ない、そういう状況です。

ましてや、これが今からこれだけ減ってしまうと。1万4,191人、今現在おるんです。ところが、2050年には5,371人に減っていくという予想なんです。こうなると、対馬の経済は成り立ちませんよ。これをいかにして市長が手腕を振るって、対馬島民を安心、安全に生活ができるようにしていくのは、あなたの力なんです。しかし、1期4年ですから、1期4年でそれをやれと言うても駄目でしょう。

しかしながら、その礎をつくるというのには4年間である程度のことは少しはできるでしょう。だから、副市長を2人制にして体制をしっかりとつくったほうがいいんですよ。いいですよという提案を申し上げておるわけですから、万全の布陣を敷いて、そしてそれで対馬島民の市民の皆さんが安心できるように、それをやっていくのはあなたの仕事なんです。

ぜひ、そこら辺をしっかりと腹に据えて、対馬をどういう方向に持っていくぞというのはあなたしかできませんから、しっかりとやっていただきたいと思いますが、市長の考えを聞かせてください。

○議長（初村 久藏君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） この人口減少、そして生産年齢人口の減少については、あくまでこれは社人研等の推計でございます。この推計も前回の推計よりも、今この令和5年度に出た推計は恐らく2030年だったでしょうか、若干緩和してきております。このことは、やはりこれまでの人口減少対策が若干、功を奏してきたのではないかなというふうに捉えております。

そういうことで今、議員もおっしゃられるように、私もこれからの4年間、集大成の気持ちで副市長を2人制として一生懸命この対馬のかじ取り役を担ってまいりたいと思っておりますので、議員皆様方の御支援、そして御協力をよろしくお願ひしたいというふうに思っております。

○議長（初村 久藏君） 8番、船越洋一君。

○議員（8番 船越 洋一君） この副市長2人制にせいということのその要点は、まずは先ほども言いましたが、人を育てる、職員を適材適所に配置をして万全の布陣を敷くということ。それと副市長2人制にして、1人は庁舎内をしっかりと見る、もう1人については対外的にそういう専門にできるような人材を入れて、市長の両腕を支える人間をしっかりと布陣を敷いて、そして市長が思うようなことをどんどん進めていくのがあなたの仕事なんです。

しっかりとそこら辺を考えていただいて、4年間しっかりと頑張ってください。終わります。

○議長（初村 久藏君） これで、船越洋一君の質問は終わりました。

---

○議長（初村 久藏君） 以上で、本日予定しておりました市政一般質問は終わります。

本日はこれで散会とします。お疲れさまでした。

午前11時47分散会

---